



主な内容

- 第70回日本PTA全国研究大会山形大会
- 第54回日本PTA 関東ブロック研究大会山梨大会
- 第1回県内地区会長・市町P連会長合同会議

アクセス

HP

Facebook



埼P連

本紙は各校に2部配付となりますので、各学級にコピー等にてご活用お願いします。QRコードからもご覧いただけます。

第70回日本PTA 全国研究大会 山形大会

令和4年8月26～27日、山形県を会場に、「第70回日本PTA全国研究大会山形大会『人とひとのつながりを体感しよう！』」が開催されました。
（詳しくはP2、3）



第54回日本PTA 関東ブロック 研究大会 山梨大会

令和4年10月15～16日、山梨県を会場に、「第54回日本PTA関東ブロック研究大会山梨大会 みんなで生きる みんなで育つこの甲斐（会）から発信 子どもと大人 共に歩み 共に考え 共に創る」が開催されました。
（詳しくはP4、5）



第2 分科会 地域とつながる学校教育～子供たちの未来のために学校とPTAが共にできること～

第3 分科会 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる人材を育てるPTA活動とは～未来を切り拓く子供たちの心の育成を考える～

自然とのふれあいや異年齢の交流等、豊かな体験をすることで、子どもは知的好奇心や意欲を高め、自ら学び、考える力を育みます。現在は、そうした機会が減ってしまっているため、地域ぐるみで子どもたちに自然とふれあい豊かな体験をさせる取り組みをしています。

第1 分科会 迷わない子育てはない！子育ての悩みを共有できるPTA活動～子育ての悩みを一人ですべて抱え込まないためのPTAの役割～

基調講演は、大人は子どもに絶対的な味方であるという姿勢と態度を見せるということが大切というお話でした。
子どもの成長過程において保護者と学校が連携して環境づくりを行うことが大切で、そのための協力体制を構築する役割の一端をPTAが担っています。

メインテーマ

- ・「いのち」のつながりを感じ、次代につなぐPTA活動
- ・「ふるさと」を愛し、心をつなぐPTA活動
- ・生きる力を「まなび」、次代につなぐPTA活動
- ・多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらくPTA活動

第5 分科会 広報活動による家庭・学校・地域のつながりを求めて～特色を生かした新たな広報活動を考える～

第6 分科会 デジタル社会におけるICTの有効な活用の仕方～デジタル化でつながる学校と家庭～

パネルディスカッションで各専門家の方より、ITCに対する副作用が提示されましたが、保護者や地域の周りの大人が見守ることで克服できます。
GIGAスクールの推進と働き方改革は一体で、それぞれを共に進めていくためには親だけでなく地域で子どもたちを育てて行くことが大切です。

第4 分科会 子どもたちの人権尊重と、人権感覚の涵養～他者と協働し、豊かな人生を切り拓くために～

いじめ対策は、思いやりの心を持つとうという道徳心だけでは足りません。いじめ行為が実際にあったときにそれを止めたり、助けを求めることができたり等、実践を伴っていく必要があります。
PTAは子どもたちと保護者の立場から意思を伝える力と役割があります。実際に文科省のいじめ対策協議会の協議に、日本PTAの役員が参加するなどの活動しています。

第8 分科会 悩みに気づき、相談される関係をつくる～子どもたちを見守るために必要なものとは～

不登校をマイナスな経験とするのではなく、不登校の子どもを持つPTA会員がいることに目を向け、共に学び合える環境を作ることが大事です。
気楽に自分の中のために持っている発散できる場を提供できるよう動き出そうとしています。困っている人に寄り添い、保護者の居場所をPTAで作っていきます。

第7 分科会 子供のために自ら学び・動くPTA～社会教育の担い手として～

PTA活動をする中で学校を中心に集まり、様々な関係づくりができます。こうした人とのつながりをPTA活動に柔軟に生かす必要があります。
PTAと学校、地域が連携、協力をすることで、様々な教育課題に柔軟に取り組むことができます。PTA活動が社会全体地域において何ができるか、どんな役割を持つかを考え共有し、その実現のためにどのようなことを実施していくか考える必要があります。

次回
 第71回日本PTA全国研究大会広島大会
 変化の時代に向け、PTA自身が学びの
 革を！見つけ 考え かわろうや ぶち
 楽しいで！！～広島から全国へ
令和5年8月25日（金）分科会
8月26日（土）全体会

特別第2分科会
メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割～子供たちへのメディア・リテラシー教育を考える～

子どもたちがメディアと正しく付き合うという観点においては、情報活用能力を育成することが大切です。

PTAの情報活用能力の育成の取り組みとして、メディアを使用する上でのルールを設け、メディアコントロールができるように子どもたちと共に勉強しています。

PTAと学校で正しいメディアとの付き合い方を推進していくことが重要です。

特別第1分科会
「令和の日本型学校教育」を支援するPTA活動～持続可能な社会の担い手の育成を目指して～

基調講演はバツカーズ寺子屋の教育実践でした。話の聞き方や話し方等、人が生きていく中で大切なことを起業関係者から学べることは子どもたちにとって貴重な経験です。

親が学校の楽しさやよさを知り、家庭での接し方が変わることにより、子どもの学校や先生に対する見方、聞き方、勉強の仕方がよい方向に変わります。

第70回 日本PTA全国研究大会山形大会
令和4年8月26日（金）分科会／8月27日（土）全体会



全体会記念講演
**「一本のタクト」は、人のこころを豊かに
 幸せにするアイテム ライブでしか味わえない
 お話と演奏をあなたに…**

大会二日目
全体会

歓迎アトラクションは、山形県の歴史や文化を感じさせる民謡や花笠音頭などでした。

記念講演では、飯森範親氏より感謝の気持ちは思っているだけでなく声に出して伝えなければならぬというお話がありました。

講演後の山形交響楽団の演奏では会場が一体となつて、つなかりを体感できる演奏でした。



講師 飯森範親氏 プロフィール
 桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。01年ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督（GMD）に着任し、日本ツアーも成功に導いた。国内では94年以來、東京交響楽団と密接な関係が続け、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。06年度、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、07年より山形交響楽団音楽監督に就任、芸術総監督を経て、22年より同楽団桂冠指揮者。パンフィックフィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者。東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。23年4月より群馬交響楽団常任指揮者に就任予定。



参加者報告書より

第1分科会**地域と共に歩むPTA 未来を見据えた組織運営の在り方**

昭和町の教育長、太田先生の講演は、CS（コミュニティ・スクール）についてです。町としてCS構想の新校舎建設、地域開放型、公園か多目的ホール作り等、学校を地域の教育と文化の拠点とする取り組みに、学校と地域が一丸となっていくということです。

P（家庭力）T（学校力）C（地域力）3つの力の連携をより強固にしPTAはPTCAへ、変化しています。

第2分科会**地域コミュニティにおけるPTA活動の在り方**

～子どもたちの健やかな成長をめざした地域社会活動の推進役として～

従来のPTAは学校と保護者による活動だったが、昨今は様々な問題の中地域の方々と共同活動し、異年齢集団で人間関係をつくります。

PTAや地域で社会教育、学校では学校教育を図り子どもたちに将来の姿をイメージさせます。

学校外でもあいさつやお礼ができるようにします。子どもの意見を最初に聞いて、子どもと保護者が一緒に成長します。地域の理解・協力がないとPTA活動、学校運営は成り立ちません。

第3分科会**子どもたちの未来のために**

～世代を超えて心を1つに…今こそ！音楽のもつその力に～

フォークシンガーのイルカさんを母に持ち、ご自身も音楽の道に進み、シンガーソングライターとして活躍する神部冬馬氏による歌と講演です。シングルファザーだった当時、昭和の名曲“異邦人”のシンガー久保田早紀さんと出会い、学校で開催のミニコンサートの手伝いをきっかけに音楽活動を通じたPTA活動に積極的に参加しました。そして沢山の仲間に出会い情報を得られました。

第4分科会**自然災害に対する安全について考えよう**

～富士山の火山災害から子どもたちを守るPTA活動～

富士山火山防災研究センターの吉本充宏先生が持つノウハウを使った、地元小学校PTAでの防災教育を行った事例の講演です。

富士山が噴火した想定で溶岩流から回避を目的とした避難訓練やハザードマップを元に、科学的に安全な方向を割り出して高台に逃げる訓練などに取り組みました。反省点課題を次に活かす工夫や、行政と共に積極的な防災教育も実施しました。

第5分科会

子どもたちが、これからのグローバル社会を生き抜く力を身に付けるために、学校・家庭・地域として何ができるのか

第6分科会**食でつながるからだと心**

～食べることは育てること、食べることはつなぐこと～

大航海時代のビタミンC不足、栄養素の偏りで死に至る病になります。

南極の外界から隔離された生活では、人と人とのコミュニケーションが重要であり、食が担う役割が大きいです。コロナ禍で黙食が推奨されていますが、食事の際のコミュニケーションは重要です。

第7分科会**ネット社会を賢く生きるための情報モラル～持たせる責任・持つ自覚～**

多種多様な情報手段の中でアプリを使用したPTA活動を提言しています。

ペーパーレス化され、情報伝達がスムーズになり各委員会の活動内容の見える化にもなりました。反面、苦手な人には嫌悪感が生まれたり、対面ではないための言葉の行き違いが見られることもありました。対外的に発信されていることの理解を得ること自覚を持つことが大切です。

参加者報告書より

この甲斐（会）から発信 子どもと大人 共に歩み 共に考え 共に創る

みんなので生きる みんなので育つ

第54回日本PTA関東ブロック研究大会山梨大会

令和4年

10月15日(土)分科会
10月16日(日)全体会

研究発表2

用土つ子と一緒に育ち 見守って

〜私たち大人にできることは?〜

埼玉県大里郡地区

寄居町用土小学校 PTA

わが町寄居は、埼玉県北西部に位置し、歴史のある町です。

町の中心に荒川が流れ、その荒川を挟み「寄居北條祭り」が行われます。

このお祭りは、5万人の豊臣勢を相手に、わずかに3500人の兵力で攻防を続けた戦いを再現したものです。そして荒川には、埼玉県立川の博物館があり、直径24.2mの日本一の大水車があります。

また、昭和の名水百選に選ばれた「日本水」(やまとみず)があります。

自然と水に恵まれた町ですが、暑さランキングでも上位になが上がるほど暑い土地です。

この夏はコロナと暑さとの戦いでした。どのように子ども

もたちの体調を守り過ごしやすい学校生活にできるか、水分は足りるのかクールタオルは使えているかなど、母たちでできている用土小学校PTA組織、母親目線だからわかることや気付いたことの工夫を行ってきました。

コロナ禍でPTA活動の見直しが必要となりました。

どうしてこの活動をしたのか、こうすればよいのではと、日々の変化と共に活動しています。

実践発表を行うのにテーマ立て、構想、資料集め等半年の時間を費やしました。

協力いただいた役員仲間、寄居町教育委員会、観光課の皆様、そして埼玉県PTA連合会の仲間、誠にありがとうございました。

全体会記念講演

「私の科学と社会貢献」

大会二日目 全体会



大村先生は「イベルメクチン」という線虫感染症の新しい治療法開発を発見し、ノーベル医学・生理学賞を受賞されたことで知られていますが、当初は動物用の薬として承認され多くの動物を病気から救ってきました。

また、犬の寿命を大きく伸ばしたのも、この薬の効果とことです。その後、人への使用が承認され、アフリカなどで多くの人々を苦しめてきた病気から救ったことで受賞しました。

先生が子どもの頃から言われていた「人のためになることをしなさい」という言葉を実践し続けたのが世界を変えるほどの大発見に繋がりました。

イベルメクチンの特許収入で病院を建てたり、生まれ故郷の葦崎に私設美術館を建てたりと、87歳になった今でも人のための活動を続けています。

講演の冒頭にお話のあった「実践躬行」二期一会」という言葉を信念に、「人のためになるならば」という想いでお話くださいました。

次回

第55回日本PTA関東ブロック研究大会
は大会「Re:○○」〜ちは発
ながら PTAのカタチ〜
令和5年10月28日(土) 分科会
10月29日(日) 全体会

講師 大村智 理学博士 プロフィール
山梨県葦崎市出身の化学者。北里大学特別栄誉教授、女子美術大学名誉理事長、日本学士院会員。東京理科大学特別栄誉博士、山梨大学特別栄誉博士、岡山大学名誉博士、薬学博士(東京大学)、理学博士(東京理科大学)、東京都名誉都民。山梨大学の学芸学部(現教育学部)卒業後、東京都立墨田工業高等学校定時制の教師として勤務しながら、東京理科大学大学院理学研究科修士課程にて学んだ後、北里研究所等において天然物有機化学・微生物化学の研究を深める。大村先生が発見・開発した「イベルメクチン」は最近四半世紀最大の発見として国際的に高く評価され、2015年に「線虫感染症の新しい治療法の発見」という理由により、ノーベル医学・生理学賞を受賞された。また、埼玉県北本市に北里大学メディカルセンターを建設すると共に、地域の科学振興を目的とした「山梨科学アカデミー」の創設、女子美術大学の「大村文子基金」の創設や葦崎大村美術館の設立など、医学・科学・文化分野の人材育成及び地域振興にも尽力している。

令和4年7月23日大宮ソニックにて第1回県内地区会長・市町P連会長合同会議が開催されました。

テーマは、「ヤングケアラー」と「部活動の地域移行」

埼玉県教育局の方にご講演をいただき、その後グループディスカッションが行われました。

知ってほしいヤングケアラー

- 法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。
- 名称を知って人は多いですが、定義があいまいです。そのため埼玉県では子どもたちの「悩んでいることの支援」と考えてます。

実態把握

- 学校でアンケートを行う。
- 家庭内のことなので外部からは見つけづらい。
- ヤングケアラー本人はお手回しの延長と考え、当事者意識が薄い。
- 家族もヤングケアラーがいないと生活が成り立たないので、外部に話が出づらい。
- 実態把握はアンケートだけでは不十分である。

認知を上げる

- 家庭・学校・地域でヤングケアラーの知識を増やし、子どもたちがヤングケアラーになっていないか周りで見守ることが大切である。
- 子どもたちが自分がヤングケアラーだと気付けるよう、教育をする。

支援

- 気づいたら基本的には市町村の福祉担当課につなぐ。
- 子どもが相談しやすい環境を整える。
- 家庭・学校・地域・行政等多くの団体で子どもたちを見守り、情報共有をする。

～部活動の現状とこれからの部活動～

部活動が果たしてきた役割として

- 異年齢での交流
- 生徒同士や生徒と教員等の好ましい人間関係の構築
- 学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養
- 生徒の多様な学びの場
など

部活動の現在の課題としては

- 少子化の影響等による部活動の存続
- 生徒の多様なニーズに応じた運営
- 体罰等の許されない指導の根絶
- 休養日の設定を含めたきせつな運営
- 教員の負担軽減
など

令和5年度以降、段階的な実施に向けて、

部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、休日に教師が指導に携わる必要がない環境を構築していく。部活動の指導を希望する教師は引き続き行うことができる仕組みと、休日における地域のスポーツ、文化活動を実施できる環境を整備していく。

★これからの部活動と地域移行について

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

詳しくは

スポーツ庁 部活動の地域移行



令和4年度

第69回埼玉県PTA連合会

広報紙コンクール

特別賞・金賞受賞PTA

【小学校の部】

〈特別賞〉

【埼玉県教育委員会教育長賞】

おおぜ

八潮市立大瀬小学校

【埼玉県PTA連合会会長賞】

みなみかぜ

春日部市立武里南小学校PTA

【金賞】

にいくら

和光市立新倉小学校PTA

あさひ

桶川市立朝日小学校PTA

ShiNwa

三郷市立新和小学校PTA

こうぼう

三郷市立幸房小学校PTA

しらはと

白岡市立西小学校PTA

【中学校の部】

〈特別賞〉

【埼玉県教育委員会教育長賞】

SCRUMI 中条

熊谷市立中条小・中学校PTA

【埼玉県PTA連合会会長賞】

大地 (だいち)

蓮田市立黒浜西中学校PTA

【金賞】

やまなみ

桶川市立桶川西中学校PTA

Lemon

吉川市立吉川中学校PTA

令和4年度

埼玉県PTA連合会

家族で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ

「三行詩」コンクール 特別賞受賞者

【埼玉県教育委員会教育長賞】

小学校の部 齋藤 柊

桶川市立桶川東小学校3年

中学校の部 稲村 美心

熊谷市立大麻生中学校2年

一般の部 栗田 希

幸手市立上高野小学校

【埼玉県PTA連合会会長賞】

小学校の部 吉田 昊太郎

三郷市立幸房小学校6年

中学校の部 大堰 寛太

白岡市立南中学校2年

一般の部 齋藤 杏菜

上尾市立東小学校

【埼玉県図書教材協会会長賞】

小学校の部 前島 輝希

八潮市立大曾根小学校2年

中学校の部 山本 鳳太

上尾市立上尾中学校1年

一般の部 船橋 幸代

寄居町立用土小学校

【審査員特別賞】

小学校の部 宮澤 歩生

秩父市立大田小学校5年

小学校の部 工藤 愛莉

松伏町立松伏小学校4年

中学校の部 木村 岳歩

上里町立上里中学校1年

中学校の部 浅見 くるる

寄居町立寄居中学校1年

一般の部 岡田 剛

熊谷市立大麻生中学校

一般の部 平川 美智

八潮市立八幡小学校

埼玉県PTA連合会保険制度

安心してPTA活動をしていただけるように、例えばこんな時にお役にたっております…
スピーディーにサポートいたします!!

他にオプションとして、児童・生徒賠償責任担保 (24時間かつ日常活動中も補償) をご案内しています!!!



※このご案内は、「PTA団体傷害保険特約(B)セット普通傷害保険」・「PTA賠償責任保険」の概要についてご紹介したものです。保険の内容は、各学校様または各PTA会長様にお渡ししております「埼玉県PTA連合会 保険制度の手引き」および重要事項説明書をご確認ください。ご不明の点がありましたら下記代理店までお問い合わせください。

お問合せ先
◇取扱代理店
株式会社東京海上日動(トクモ)TOKIO品川支店(担当 野村 金井)
住所 港区港南2-15-2 品川インターシティB棟11階
TEL 03-65626-8200
◇引当保険会社
東京海上日動火災保険株式会社
担当支社 東京中央支店 専業営業第3チーム
住所 港区港南2-15-2 品川インターシティB棟11階
TEL 03-5781-6583



広報委員会

- 委員長 小池 祐子(埼玉)
- 副委員長 坂巻 元子(北部)
- 副委員長 久保田優子(児玉)
- 委員 座光寺 剛(南部)
- 永田 正明(秩父)
- 藤間 太郎(大里)
- 八木原利幸(中学校長会)
- 担当副会長 田代 絢香(児玉)



編集後記

広報委員として山形大会、山梨大会に参加し、人となることが大切さを肌で感じる事ができました。また、子どもたちの教育環境を充実させるためには、「家庭・学校・地域」が連携し協力をすることが重要だという思いを強くしました。

広報紙が多くの皆様にPTA活動を知っていただくという役割を担うと共に、「家庭・学校・地域」、「会員と会員」のつながりを拡げる一助になれば幸いです。